

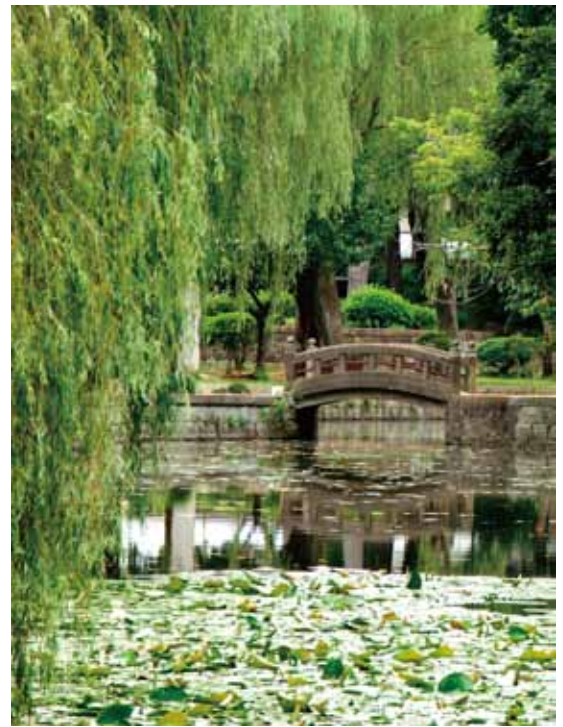
2017年～2018年度 国際ロータリーのテーマ



ロータリー：  
変化をもたらす

2017～18年度 国際ロータリー会長  
イアン H.S. ライズリー 氏

9月は基本的教育と識字率向上  
・ロータリーの友月間です。



『土浦市亀城公園』

写真提供…河合 隆 会員

2017～2018年度(第60期 小原年度)

## 9月第3例会プログラム

9月21日(第2910回) VOL. 10

- 点 鐘
- ロータリーソング
- 来賓紹介
- ビジター紹介
- 幹事報告・委員会報告
- 会 食
- 卓話「これからの高等学校教育について」
- にここBOX
- 出席報告
- 点 鐘
- ロータリーソング

会 長  
奉仕の理想  
会 長  
親睦活動委員会

土浦第一高等学校長 杉田幸雄 様  
S.A.A  
出席委員会  
会 長  
我等の生業

RI(国際ロータリー)の創立:1905(明治38) 日本のロータリー創立:1920(大正9)

### RI第2820地区 茨城県

RI(国際ロータリー) 承認 日本国内247番  
創立 1958年2月14日(昭和33年)  
承認 1958年3月7日(昭和33年)

事務局：土浦市中央2-16-9 (常陽銀行4F)  
U R L <http://www.tsuchiura-rc.org>  
例会場：L'AUBE Kasumigaura

### 土浦ロータリークラブ

姉妹クラブ RI第3520地区 台北陽明扶輪社  
会長 小原 芳道 幹事 平島 隆之

TEL 029-822-1250 FAX 029-824-8830  
E-mail [office@tsuchiura-rc.org](mailto:office@tsuchiura-rc.org)  
毎週木曜日 12:30～13:30

★ ★ ★ ★ ★  
**60**<sup>th</sup>  
**ANNIVERSARY**

## 地区研究会・セミナー報告

### クラブ奉仕研究会 報告

竹内 崇 クラブ管理運営委員長

本年度、クラブ管理運営委員長を仰せ付かっております竹内です。  
去る7月17日、三の丸ホテル（水戸市）で開催された、2820地区クラブ奉仕研究会の報告をさせていただきます。当クラブからは、沼田副会長と私の2名で参加いたしました。

2820地区において、次年度会長予定者、次々年度会長予定者が一堂に会して開催される初の研究会という事で、地区役員の皆様の強い意気込みが感じられました。

本年度、次年度のクラブ管理運営だけではなく、4年後、5年後を見据えた中長期計画を具現化することの重要性を痛感しました。特に会員増強、入会歴の浅い会員への研修の実施、公共イメージの認知度アップ等、今後クラブとして取り組むべき課題を多く示され、身が引き締まる思いでした。

土浦ロータリークラブが未来永劫存続し、繁栄し続ける為に何をすべきか。常に直面する難しい課題ですが、変化を恐れず、挑戦する勇気を持ち続け、今後のクラブ運営に携わって行く所存です。



### 社会奉仕研究会 報告

岩瀬市朗 社会奉仕委員長

今年度の社会奉仕研究会は7月29日(土)に水戸三の丸ホテルで保延ガバナーはじめ高橋ガバナーエレクト、長谷川担当カウンセラー各分区ガバナー補佐、地区委員、地区内のクラブ社会奉仕委員長総勢94名参加のもと開催されました。

保延ガバナーは挨拶で

- (1) ロータリーテーマ「ロータリー：変化をもたらす」に基づきクラブ社会奉仕活動の見直しを図る。
  - (2) 地区スローガン「未来へのチャレンジ」に基づき新しい事業の展開を図る。
  - (3) 地区目標「公共イメージと認知度の向上」に基づき、ロータリーの認知度向上の為に社会奉仕活動を積極的に広報する。
  - (4) 「社会奉仕の精神」に基づき地域の人道的プロジェクトに積極的に参加協力する。
- 以上の点についてクラブをあげて実践するよう強調されました。



長谷川担当カウンセラーは講演にて

社会奉仕の概念について話されました。社会奉仕に関するロータリーの方針は、決議23-34にのべられているということで1992年の規定審議会で採択された10項目の声明について説明されました（手続き要覧社会奉仕に関する声明参照）

これはロータリーの奉仕の哲学を説き、社会奉仕活動が個人に限らず団体としても望ましいと述べ、社会奉仕を実行する場合、その地域社会が何を求めているかを調査し、それができる機関や施設があるかを確認、もしあればそれに協力し強化することで二重化を避け、また、なければ適当な企画をたて途中で挫折しないよう戒めたものであり、自己の利益を得ようとする欲望と、他人に奉仕しようとする義務感との心の中の争いを和解させようとする人生の哲学、すなわち「超我の奉仕」を説いたものであり、ロータリアンは単に心の中で思っていない、奉仕するには実践を活動に移さねばならないと言っております。

この23-34によってロータリーの永遠哲学、方針、プログラムが完成されてきたものと考えられます。

以上の原点をよく理解して、現在の奉仕活動を再度見直して見て欲しいと結ばれました。

続いて、現在の奉仕活動を見直ししてみるという意味合で、各分区から代表して1クラブずつ、現在行っている活動を事例発表として報告しました。第6分区は土浦RCが選ばれ発表して参りました。

事例発表の後に、公共イメージ委員会の永井委員長より、各クラブで実施しました素晴らしい奉仕活動を、公共メディアをいかに利用して、社会にアピールしていくか、その方法等の講演がありました。

最後に高橋ガバナーエレクトから各クラブとも、素晴らしい社会奉仕活動を実施していることを確認できました。今後も本日の研修を活かし更なる実践をしていただくことを期待します。という総評があり、閉会となりました。

## 国際奉仕研究会 報告

竹中廣夫 国際奉仕委員長

去る7月30日(日)に、ホテルグランド東雲に於いて国際奉仕研究会が開催されました。1) 地区の国際奉仕委員会では世界社会奉仕(WCS)と国際交流共同の二つの委員会を柱に各クラブの国際奉仕活動を支援しています。その中、世界社会奉仕委員会では、多くのクラブが国際奉仕活動に参加できるよう、第2820地区独自のプログラムである「この指とまれ」プログラムを10数年推し進めています。国際交流共同委員会には鶴田一郎くんが委員長として出向して地区のリーダーとして活躍しています。



世界社会奉仕(WCS)プログラム[この指とまれ]について少し説明しますと、このプログラムは2820地区独自のプログラムです。一つのクラブでは資金的に困難な時、またもう少し大きな事業をしたい時、事業の提唱クラブとなりプレゼンテーションを行い、地区内のクラブに事業への賛同を募り、賛同するクラブがお金を出し合って事業を支援するという独自のプログラムです。このプロジェクトは、地区内のクラブが助け合い手を携えあう、謂わば相互扶助プロジェクトともいえると、世界社会奉仕委員長の大藤博文君はおっしゃっています。今年は6つのクラブから[この指とまれ]のプロジェクトエントリーがありました。土浦RCの国際奉仕委員会としては委員会の中で検討し、いくつかの賛助クラブの募集に応じる予定です。

### 「この指とまれ」プロジェクトエントリー一覧

	事業名	提唱クラブ
1: タイ	タイ東北・農村部の小学校へ「浄水器支援事業」	大子クラブ
2: タイ	中古消防自動車贈呈プロジェクト	水戸南
3: ネパール	ネパール貧困児童へ学用品援助	下館
4: フィリピン	ペンシルプロジェクト	しもだて紫水
5: ミャンマー	MOTTAINAI PROJECT (もったいないプロジェクト) 2017	玉造
6: タイ	看護系学校に進学した生徒の学費支援事業	鹿島中央

2) 地区国際交流奨学生の募集の案内がありました。

- ・募集資格は2018年4月までに大学課程を修了している者、
- ・または修了することが見込まれる者

詳細については、地区ホームページで紹介

## 米山カウンセラーセミナー 報告

金澤幸江 米山記念奨学副委員長

8月5日(土) つくば山水亭にて 10時～14時30分

基調講演「米山奨学生・学友会・ロータリアンとして思う事」

国際ロータリー第2750地区 東京米山友愛ロータリークラブ 朴 貞子 様

奨学生としてお世話になってから、奨学生をお世話する立場になるまでのこと、米山記念奨学会の存在意義・役割など、実体験から熱く講演されました。



昼食をはさんで

- ・カウンセラーの役割とは
- ・クラブ会員と米山奨学生との交流
- ・米山奨学生に求めること

をテーマにグループディスカッションが行われ、その結果の発表がありました。

経験豊かな会員のご意見、私のように初めてカウンセラーになった会員の不安や希望など様々なご意見を伺い、大変勉強になりました。

過去の累積寄付金額は土浦RCが茨城県でトップで、1億1773万2835円です。当クラブ米山記念奨学委員長の所見にもありましたが、「本年度は土浦RC創立60周年にあたるとともに財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立50周年を迎えます。

本年度1億2千万円達成クラブの実現を目指して努力していきたいと思っております。」

ご協力よろしくお願いたします。